

Hospital & Clinic

橋大南ろぽりさく
クッニ

増改築で透析40床に

心リハ実施へ専用スペース

札幌市豊平区のさっぽろ南大橋クリニック(木村幸滋理事長・無床)は、新棟建築工事を終え、供用を開始した。透析ベッドをう倍となる40床に増やすとともに、手術室やリハビリ室、相談室を新設。透析関連の治療から機能回復・維持にとどまらず、循環器も含め、これまでよりも幅広く患者の健康をサポートしていく。

同クリニックは、2022年11月に開業。人工透析は20床全て個室とし、2階は透析室。既存し、透析を含む腎不全患者の継続的な支援体制を構築してきた。

新棟は3階建てで、隣接する駐車場に建設し、効率的にシャント部分などを看視でき、安全性とプライバシー保護を両立しつつ、働くスタッフの負担を軽減している。

3階はリハビリ室やCT検査室、手術室、相談室を新たに設けた。リハビリ室は45mの広さを確保。理学療法士を2人配置する予定だ。透析患者の生活習慣改善に向けた各種運動のほか、隣接するサ高住の入居者の運動不足解消にも活用している。

さらにトレッドミル等の機器をそろえて、心臓リハビリも開始する。心疾患と腎疾患は、さまざまな部分で関連していることもあるのに加え、周辺地域で心リハのニーズが高いこともあって、心不全の再発防止も含めて、地域住民の健康維持に貢献していきたいと考えている。

手術室には、リアルタイムで血管の状態を確認できるエックス線透視装置を導入し、さまざまなシャントトラブルに対応するほか、将来は血管狭窄に対するバルーン治療なども行っていく。

増築に併せて既存棟を改修。患者増に対応するため、待合スペースはこれまでの2倍に拡張したほか、生理検査室はベッドが2台入る広さとし、患者指導などに使用する相談室も新設した。とくに専門職による療養指導や栄養指導を重視しており、プライバシーが確保された空間を用意することで、実効性の高い生活習慣病療養計画の作成へとつなげていくのが狙いで、相談室は既存棟の2室のほか、増築棟に1室の計3室となる。

今回の増改築で、透析患者の受け入れ体制だけでなく、腎疾患と心疾患の検査・診療・リハビリ体制の強化が実現した。従来からの訪問診療も含め、木村理事長は「地域に寄り添う医療を展開していきたい」と意気込んでいる。

CTは64列マルチスラ



新棟完成で幅広く健康をサポートする体制を整えた